

話してくれた方



氏名：流石香織 さん

卒業年度：2010年度

勤務先：出版・WEB業界

HP：<https://ka-edit-it.jimdofree.com/works/>

※HPやFacebook（流石香織）で
ご活躍が見られます！

現在の仕事内容

2014年から、書籍やWEB記事を中心にフリーランスのライターとして活動しています。主な仕事内容は、取材や執筆、企画など。ビジネスやライフスタイルをはじめ、オールジャンルの記事を担当しています。

社会心理学に関係する記事を担当することもあり、大学で学んだ知識が役立った経験は少なくありません。取材対象者の方は経営者や専門家の方などさまざまで、この仕事をしていたからこそ出会えたご縁も。最先端の知識や世の中で役に立つノウハウを知ることができる、刺激的な仕事です。

仕事のやりがいや大変なところ

仕事のやりがいは、関係者のみなさんと作り上げた本や記事が世の中に出て、読者の方から反応をもらえたときです。

大変なのは、専門家である取材対象者の方に合わせた知識を学ぶ必要があること。

また、取材も執筆も技術が求められるため、本を読んだり周りとは情報交換したりしながら勉強を続けています。技術の習得に終わりはありませんが、それでも続けていこうと思えるのは、価値ある情報を「伝えたい」からだと思います。

大学への志望理由、入学して学んだこと

「人の心の動きに対する理解を深めて、それを活かせる仕事に就きたい」と思い、志望しました。

入学して学んだことは、論理的な説明の仕方です。

読者の方に物事をわかりやすく伝え、納得していただくには、まず論理的な文章を考えなければいけません。

その際、大学4年間のレポート作成などで、

「どうやって論理的に説明していけばいいのか」を学び、訓練を繰り返したことが役立っているように感じます。

あなたが感じる社会・臨床心理学専攻の特徴

社会心理学と臨床心理学の知識を満遍なく習得できることです。基礎から無理なく学べる仕組みで、先生方のサポートも手厚く、知りたいことは丁寧に教えてくださったので、

「ここで真剣に学べば、道が開ける」と安心しながら学生生活を送っていました。

また、ロールプレイング形式の授業などは、知識を身につける機会になります。「わかる」と「できる」には大きな差があるように感じますが、傾聴やアサーション（相手を尊重しつつ自分の意見を主張する方法）などを実践的に学んだことで、机上での学びが身につき、社会人になって活かすことができました。

受験生の皆さんへ

興味があるものに、まず飛び込んでいくことが大事だと思います。先日、取材した方に学んだことは、自分の足でいろいろなことを経験しないと、「自分の一生を懸けたい」と思えるものは見つからないということです。

どんな理由でもいいので、少しでも興味があれば、飛び込んでみる。私もそうやって大妻に入学して、在学中のご縁でこの業界に飛び込んでみたことが、今の仕事につながりました。自分の気持ちに誰よりも敏感になれるのは自分なので、心が動いた瞬間を見逃さず、正直に進んでみてください。